

丸山定巳教授の退職に寄せて

社会福祉学部長 小 泉 尚 樹

丸山定巳先生は平成22年4月、環境社会論担当の教授として熊本学園大学社会福祉学部福祉環境学科に着任されました。着任後は、環境社会論、社会学概論、環境論Ⅱ、水俣学など学部の講義のほか大学院では環境社会論特殊研究、環境福祉学特殊研究指導、また国内外の公害発生地域の臨地研修をおこなう福祉環境学フィールドワークなどの授業に精力的に取り組んでいただき、本学部福祉環境学科ならびに大学院社会福祉学研究科での教育・研究に多大の貢献をはたされました。3年の短い在籍期間ではありましたが、長年の地域社会学研究ならびに水俣病事件研究に裏打ちされた先生の学識に触れることができたのは、本学の学生たちにとってまことに幸いでした。これまでの先生のご貢献にあらためて感謝申し上げる次第です。

さて丸山先生は熊本における地域社会学研究の開拓者であり草分け的存在として著名な社会学者であられることはあらためて申し上げるまでもないところです。先生は宮崎県立高鍋高等学校をご卒業になり、京都大学文学部、同大学院文学研究科博士課程をへて1968年4月、熊本大学法文学部に赴任されました。熊本大学での在任期間は35年以上におよび、熊本大学の歴史の生き字引的存在として、国立大学の歩みとともに研究生活をおくってこられました。その間、平成9年から11年まで熊本大学文学部長をつとめられ、14年からは同大学院社会文化研究科教授を併任されるなどしてのち、平成17年に熊本大学を定年退職されました。その後は久留米工業大学工学部に教授として在籍されておりました。平成19年からは本学水俣学センター客員研究員におつきになり、そして上記の通り平成22年、本学教授にご就任されました。

先生と本学とのご縁は、地域社会学研究と並んで先生がこれまで、もう

一つの柱として立ち立てられてきた水俣病社会学的研究にありました。熊大ご退職時の先生への送別の辞などを拝見しますと、先生の水俣病事件研究は四半世紀以上ものあいだ丸山研究室で続けられた水俣病研究会の開催をつうじて、先生のなかで醸成されていったことが理解されます。そしてその成果は、平成8年度毎日出版文化賞に輝いた水俣病研究会編『水俣病事件資料集』（上、下巻）などに結実しています。先生のこうした水俣病の社会学的研究は、いまでこそ社会学の一研究領域として地歩を占めるに至った環境社会学の草分け的研究であると評価されています。

本学での先生とおつきあいはわずか3年に過ぎませんが、実は先生は商大熊大教職員親善野球大会のレギュラーで、私自身も商大組で参加した新任教員のころから先生とはお目にかかっておりました。試合後の懇親会も、飲めばまたいっそうおらかな先生のおかげで勝敗を超えた楽しさに包まれていたと記憶しています。

本学を退職されるにあたりお名残はつきません。これまでのご貢献に感謝申し上げますとともに、未永くご健康で過ごされることを祈念いたしまして退職記念号のご挨拶といたします。

丸山定巳 略歴

昭和15年 2月22日生

< 学歴 >

昭和38年 3月 京都大学文学部卒業

昭和40年 3月 京都大学大学院文学研究科修士課程修了

昭和43年 3月 同上博士課程中退

< 職歴 >

昭和43年 4月 熊本大学講師法文学部

昭和47年 7月 熊本大学助教授法文学部

昭和57年 4月 熊本大学教授文学部

平成 9年 4月～11年 3月 熊本大学文学部長

平成14年 4月 熊本大学大学院社会文化研究科教授併任

平成17年 3月 定年退職

平成17年 4月 久留米工業大学工学部教授

平成19年 3月 定年退職

平成22年 4月 熊本学園大学社会福祉学部教授

平成25年 3月 定年退職

研究業績（丸山定巳）

（著書）

1. 近畿—その人文、社会科学的研究
共著 昭和44年 鹿島出版会 「マスコミュニケーションにおける近畿圏」
を担当。pp.235-248
2. 水俣病に対する企業の責任
共著 昭和45年 水俣病を告発する会 pp.245-257
3. 社会学を学ぶ人のために
共著 昭和50年 世界思想社 「公害と家族—水俣病患者家族の生活」を
担当。pp.159-179
4. 現代生活と社会学的視点
共編著 昭和52年 葦書房 「変動する地域社会と住民生活」を分担。
pp.112-131 巻末の「人と文献」も担当。
5. 家族集団の病理「家族病理学講座2」
共著 昭和54年 誠信書房 「公害・災害と家族病理」を担当。pp.206-225
6. 地域政治の社会学
共著 昭和58年 世界思想社 「住民運動と参加」を担当。
7. 地域にいきる
編著 昭和63年 熊本大学 総頁数215頁
「地域問題と住民の対応」 pp.1-13、「地域生活の可能性」 pp.197-209担当。
8. 新版社会学を学ぶ人のために
共著 昭和63年 「公害と家族—水俣病患者家族の生活—」 pp.159-180
9. 環境都市の形成
共著 平成5年 全国市長会 「生活環境と住民—求められる「市民」的

領域の拡充－」 pp.267-272

10. The Long Road to Recovery: “Community Responses to Industrial Disaster”

共著 平成8年 UNU Press ‘Responses to Minamata disease’ pp.41-59

11. 水俣病事件資料集（全2巻）

共編著（水俣病研究会）

平成8年 葦書房 総頁数1754頁

平成8年毎日出版文化賞、第18回熊日出版文化賞

（水俣病の公式確認から見舞金契約の締結まで）の解説を担当、pp.99-119

12. 地域文化の社会学

共著 平成10年 世界思想社 「住民参加と地域の活性化」 pp.104-124

13. 七つの巨大事故－復興への長い道のり

共著（J. K. ミッチェル編）平成11年 創芸出版

上記10の日本語版、「第2章 水俣病被害：企業・行政・地域社会はどう対応したか」（pp.41-61）は、部分的に加筆した。

14. 水俣の経験と記憶

共著 平成16年 熊本出版文化会館 300頁

15. 水俣からの想像力

共著 平成17年 熊本出版文化会館 234頁

16. 健康を決める社会的要因の探求

共著 平成20年 三恵社

（学術論文）

1. 現代都市社会の構造論的考察

昭和41年 ソシオロジ、Vol.13, No.1, pp.52-70

2. 現代のスラム問題

昭和45年 熊本大学法文論叢、Vol.27, pp.139-163

3. 地域の工業化と自治体行政の課題

- 昭和53年 自治研修（第一法規）211号, pp.40-47
4. 地域社会と住民参加
昭和57年 熊本大学文学部論叢、第4号, pp.13-33
5. 企業と地域形成—チッソ（株）と水俣
昭和60年 文学部論叢第16号, pp.19-37
6. 地域社会と企業の社会的貢献—社会的貢献に対する企業の意識と地域のニーズ
共著 平成5年 熊本開発研究センター研究年報、第4号, pp.89-106
7. 地域社会と環境問題
単著 平成8年 熊本大学共同研究報告書、『国際統合の進展のなかの「地域」に関する学際的研究』 pp.475-479
8. Expectations for the National Institute for Minamata Disease (NIMD): Outbreak of Minamata Disease and the Responses of Company, Administration and Local Community
平成9年 環境庁 国立水俣病総合研究センター、PROCEEDINGS OF NIMD FORUM'97, pp.2-5
9. 水俣市立水俣病資料館の経緯と意義
平成10年 水情報、Vol.18, No.6, pp.3-6
10. 水俣病に対する責任—発生・拡大・救済責任の問題をめぐって
平成12年 環境社会学会 環境社会学研究、第6号, pp.23-38
11. 企業都市と公共空間
単著 平成16年 日本都市社会学会年報 31-42頁
12. 水俣病事件とマスメディア
単著 平成18年 新聞研究 No.661 56-59頁
13. 水俣病認定申請者の生活実態と健康状態
共著 平成21年 中京大学現代社会学部紀要 第2巻第1号 pp.41-58
14. 水俣病と地域社会
単著 平成20年 不知火海・球磨川流域圏学会誌 第2巻 第1号

<翻訳>

1. 現代社会学の系譜 (D. マーチンデール)

共著 昭和45年 未来社 pp.79-127

分担：第三草、第四章

<研究報告等>

1. 愛隣地区総合実態調査報告書

共著 昭和43年

2. 都市と大学に関する総合的研究 (日本都市計画学会)

共著 昭和50年 「地方都市における学性生活の実態」 pp.23-29 「域社会における大学人の活動」 pp.71-93を担当

3. 熊本県の人口構造とその変動

共著 昭和52年 (財) 熊本開発研究センター「研究シリーズ」8号、pp.9-30

4. 工業導入に伴う地域融合システムに関する研究

共著 昭和52年 (財) 熊本開発研究センター「研究シリーズ」8号

分担：「研究の目的と方法」(pp.1-2)「住民生活」「今後の課題と対応」(pp.123-148)

5. 地域の再生と創造をめざしてー地域社会づくりと住民参加

共著 昭和53年 (財) 熊本開発研究センター「研究シリーズ」11号 分担「地域社会づくりと住民参加の背景」(第一章)「住民参加の意義とその必要性」(第二章)「今後の課題」(第四章)、pp.1-86、pp.205-224

6. 昭和54年度水俣病に関する総合的調査手法の開発に関する研究報告書 (64頁)

単著 昭和55年 日本公衆衛生協会

7. 昭和55年度水俣病に関する総合的調査手法の開発に関する研究報告書

(本編207頁、続編161頁)

単著 昭和56年 日本公衆衛生協会

8. 水俣病患者補償に関する調査報告(1)～(4)

共著 昭和58年 熊本大学、熊本法学、第36号～第42号

富樫貞夫、丸山定巳

9. 熊本地域の自立と活性化の指標に関する研究

共著 昭和62年 (財)熊本開発研究センター pp.165-220

10. 企業都市における公害等地域問題の比較研究

単著 平成9年 平成6年度～平成8年度科学研究費補助金研究成果報告書

11. 環境保全と村落の共同性

単著 平成11年 熊本大学文系共同研究報告書『持続可能社会の総合的研究』
pp.140-142

12. 水俣病問題—過去・現在・未来

編著 平成11年 熊本大学生命倫理研究会・水俣病グループ「地域の問題としての水俣病」「政治解決と地域の再生」を担当。pp.16-18, 31-32

13. 阿蘇地域の農林地保全・複合利用とルーラル(田園)・ツーリズム施策の研究編著

共著 平成12年 阿蘇グリーンストック研究会トヨタ財団研究助成報告書

14. 阿蘇の草原とツーリズム

共編著 平成13年 熊本大学地域連携フォーラム「阿蘇の暮らしと草原保全」

15. COMMUNITY RESSPONSES TO MINAMATA DISEASE 6th
International Conference on Mercury as a Global Pollutant

平成13年 Oral Poster 部門

16. 水俣病の現在と地域の再生

共編著 平成14年 熊本大学地域連携フォーラム

17. 地域社会—対立からもやい直しへ—

平成17年 問い続ける水俣・水俣病—水俣病50年を前にして 熊本大学学

術資料調査研究推進室シンポジウム報告書 19-25頁

18. 水俣病と地域社会

単著 平成17年 International Conference on General Education Role in Promoting Sustainable Living (Shu-Te Univ. Taiwan) 71-76頁

19. 水俣病認定申請者調査①—④

共著 平成18年 公衆衛生 Vol.70 No.2-5

20. 平成21年 (書評)『津軽、近代化のダイナミズム』 日本都市社会学会
年報27 93-96頁

21. 平成21年 水俣の再生と地元学 鳥越皓之他編『よくわかる環境社会学』
149頁

22. 平成21年 水俣の歴史を知る みなまた環境大学実行委員会『みなまた
環境大学』 7-10頁